

## ☆とっても印象深かった修学旅行☆

去る5月28日29日、6年生の日光修学旅行がありました。最近修学旅行も多様化し、体験学習的なもの、地方の学校との交流を目指したもの等、様々な形になってきました。そんな中で昔ながらの日光の修学旅行はあまり変わってないに見えますが、ここ数年修学旅行の在り方を見直す学校が増え、おなじ日光の修学旅行でも内容がずいぶん変わってきています。「これは修学旅行を学習にどう活かすか」の考え方が昔に比べてかなり変化しているからです。それでも子どもたちにとっては楽しい修学旅行です。子どもたちの目には今年の修学旅行はどう映ったのでしょうか。

「うわー、大きい。」  
わたしは東照宮の迫力におどろいた。中に入るとたくさんの彫刻たちが私たちを迎えてくれた。今までの愛川体験学とはちがうときどき感が、わたしを東照宮に吸いこんでいった。「本物の動物を間近で見ると、色鮮やかにいろいろなものがあるなあ。昔の事実では大変だっただろうな。」そんなことを考えていた。その時のわたしは時間を忘れたかのような感じで東照宮を見ていた。鳴き竜もとてもおどろいた。竜が今にも動き出してしまいそうな感じがして、何か追い出される感じがして、わたしは一步引き下がってしまった。

6年 桐山 奈美



流れ落ちるものすごい水の音。今でも耳に残っている。水しぶきが飛んできたから、みんなの顔が輝いて見えた。華厳の滝は昔より滝の幅がすこし広がったそうだが、それでも細く見えた。圧倒的な迫力で、わたしは自分を見失っていたような気がした。それに比べ湯滝はちがうように思えた。迫り力があるというより、太陽の光がみなものに反射していたためか、「あわがたくさんある海」という感じがした。以前鬼怒川のライン下りをしていたとき見た滝、白い糸の

ような白糸の滝、様々な滝を見てきたが、すべてがちがっていた。人間の顔が一人一人すべてちがうように、滝も一つ一つすべてちがっていた。それは、華厳の滝は背の高い男の人。湯滝はきれいな女の人に感じた。どの滝も存在感があると思った。

6年 谷藤 真央

宿舎の東観荘は部屋が大きくてびっくりしました。もっとおどろいたのはご飯がとてもおいしかったことです。おみやげもいっぱいあって買うのに迷ってしまいました。宿でいちばん楽しかったのは、日光彫りでした。日光彫りは特別な彫刻刀で彫るといわれていたので、どんな刀かなと思っていたら、自分が持っている彫刻刀とは全然ちがう彫刻刀だったので、どうやって彫るのかなと思いました。説明を聞いて彫ってみてもなかなかうまくいきませんでした。でもやっているうちにだんだん慣れてきました。彫るのが大変なところはカーブです。いつも刀がはみ出て大変でした。作品がうまく彫れて楽しかったです。

6年 西川 翔太

ぼくが修学旅行でいちばん印象に残ったところは東照宮、華厳の滝、湯滝です。

東照宮では想像の象と眠り猫の彫刻がとてもきれいで印象に残りました。鳴き竜もよかったのですが写真をとれなかったのが残念でした。2日目の華厳の滝での水しぶきの迫力は今でも忘れられません。滝の周囲の岸壁には穴があき、その中には鳥が住んでいるようでした。鳥が飛び交う中、観光客でにぎわい写真をとるのはとても大変でした。ここは、ちょっと寒く感じました。

6年 木村 直道